



JR連合 NEWS

JR産業に集う
すべての仲間の
JR連合への
総結集を！！

2024 年度

No. 19

2024年8月20日

日本鉄道労働組合連合会

被爆79年・連合2024「平和ナガサキ集会」に参加

「長崎を最後の被爆地に」との決意を共有

8月9日、長崎は79回目の「原爆の日」を迎えた。JR連合は、8月8日～9日の2日間、連合「2024 平和行動 in 長崎」の取り組みとして、長崎市内各地で開催された集会や慰霊式等にJR東海ユニオンおよび長崎地本を中心とするJR九州労組の組合員とともに参加した。参加者は、原子爆弾の犠牲となった方々悼み、「長崎を最後の被爆地に」との被爆者からの言葉に耳を傾け、核兵器廃絶と世界の恒久平和実現を祈念した。

8月8日、長崎県立総合体育館・メインアリーナにて開催された、連合「2024 平和ナガサキ集会」には、来賓として大石賢吾長崎県知事、鈴木史朗長崎市長らが参加した。大石知事は、「世界各国の指導者の皆様方には、是非長崎を訪問していただき、被爆の実相を正しく理解していただきたい」と挨拶した。また、鈴木市長は、核保有国間での対立や国際社会の分断が一層



連合主催の平和集会に参加

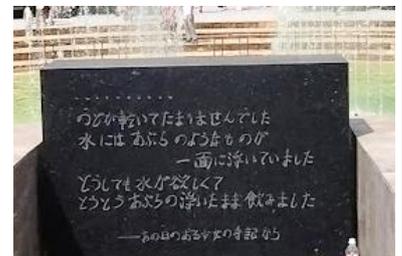


被爆体験を語る築城氏(99歳)

進んでいる現状に危機感を示したうえで、「このような緊迫した状況だからこそ、私たち一人ひとりが力を合わせて、一日も早い核兵器のない世界に実現に向けていくことが大変重要」と訴えた。

その後、18歳で被爆を経験した長崎平和推進協会の築城昭平氏から激しい火傷を負った被爆者が続々と避難する地獄絵のような惨状など、当時の体験談を伺い、原爆の非人道性について学んだ。

8月9日には「2024 ピース・ウォーク」に参加し、連合長崎の青年・女性委員会のスタッフによるガイドを受けながら、爆心地公園や長崎市平和公園、平和記念像などを巡った。爆心地の下の川には、息絶えた人々の脂が浮いていたが、それでも水を求め飲んだという痛ましい悲劇を刻んだ石碑と共に1969年に建設された「平和の泉」の清掃活動は、現在も連合長崎が担っていることも学んだ。



「平和の泉」に刻まれた碑文

ロシアのウクライナへの軍事侵略により核兵器の脅威が高まり、核兵器廃絶への道のりは非常に厳しい環境にあるが、JR連合は連合の平和行動に連帯・参画し、世界平和の実現に向けて取り組んでいく。